

令和4年6月吉日

各 位

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター  
センター長 高宮広土

### 国際島嶼教育研究センター第220回研究会のご案内

国際島嶼教育研究センター第220回研究会を下記のとおり開催いたします。皆様方の多数のご参加を心よりお待ちしております。

#### 記

日 時：令和4年6月27日（月）16時30分～18時  
会 場：総合教育研究棟5階 国際島嶼教育研究センター会議室  
（〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21-24）  
中 継：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室  
（〒894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町15-1 奄美群島大島紬会館6階）  
WE B：Zoom（※本年度からオンライン参加の登録先が変更されました。）  
参加費：無料（通信費は参加者負担）

#### 海岸植物クサトベラの種子散布に関わる果実二型の維持機構

榮村奈緒子（鹿児島大学農学部）

固着性の植物にとって、種子散布は分布拡大のための唯一の手段である。個々の植物の種子は、風、水、動物などの特定の散布媒体に適した果実形態をもつ。また、散布媒体によって種子が散布されやすい環境は異なる。そのため、植物が新たな環境への侵入した場合、本来の散布媒体を失い、新たな散布媒体に適応した果実形態の獲得とともに種分化したと考えられる例が、広い分類群の植物で観察されている。しかし、このプロセスには不明な部分が多い。

海岸植物のクサトベラ（クサトベラ科）には、海流散布能力を持つ果実（コルク型）と持たない果実（果肉型）の個体間変異が分布域に広く存在し、コルク型は砂浜で、果肉型は海崖で優占する。本種のような、種子散布形質に個体間変異が存在し、その変異によって環境選好性が変化する植物は、散布形質進化に起因する種分化の初期プロセスを理解するのによい材料である。本発表では、クサトベラの果実二型が存在する維持機構を理解するために、発表者が行ってきたこれまでの研究を紹介する。

### 【対面式でのご参加（要登録・人数制限あり）】

新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、ご自身の体調を十分お考えのうえ、ご参加ください。また、ご参加いただく際には、マスク着用等、感染防止にご協力ください。センター会議室は先着15名様、奄美分室は先着9名様とします。

対面式でのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールまたは電話にて6月23日（木）までにお知らせください。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、対面式を中止する場合がございますのでご了承ください。

お名前（必須）：

お電話番号（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メールアドレス：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きのうえ、メールアドレスも必ず記入してください。

### 【オンライン（Zoom）でのご参加（要登録）】 ※オンライン参加の登録先が変わりました。

インターネット環境とパソコン、スマートフォン、タブレット等があれば、ご自宅やオフィスからご気軽にご視聴いただけます。通信費は参加者負担となります。

オンラインでのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールにて6月23日（木）までにご連絡ください。Zoomの視聴方法については、参加登録後に届く、登録確認メールをご覧ください。

お名前（必須）：

メールアドレス（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きください。

---

### 【ご連絡先】

対面式（申込期限：6月23日（木））

センター会議室：shimaken@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 099-285-7394（担当：西）

奄美分室：amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 0997-69-4852（担当：生）

オンライン（Zoom）（申込期限：6月23日（木））

yotsuka@cpi.kagoshima-u.ac.jp（担当：大塚） ※オンライン参加の登録先が変わりました。

（なお、対面式後の懇親会は、当面の間、開催いたしません）